



## 2. 新分科会設立のご挨拶 日本歯科コミュニケーション学会設立のご挨拶

河口 浩之  
広島大学病院 口腔総合診療科

この度、ヘルスコミュニケーション学関連学会機構の分科会として「日本歯科コミュニケーション学会」を設立しました。

医療関係訴訟の2021年診療科別既済件数の1位は内科の238件ですが、歯科は100件で第2位です。歯科の訴訟件数が多い理由は、医療ミスや治療の失敗もありますが、患者とのコミュニケーション不足や誤解が原因であることが多く、歯科医療者側と患者側とのコミュニケーションエラーに注目しなければいけません。歯科医療現場においては、歯科医療者側が診療効率を求めため予約診療制をとる場合が多く、予約時間内で可能な歯科治療を実践します。しかし、治療のキリが悪く、診療時間枠を超える場合も少なくありません。また、診療時間に患者とのコミュニケーションをしっかりとる時間を設けていません。治療してなんぼの世界です。過去を振り返ると、歯科医療者は、口腔内の問題にのみ焦点を当て、歯科医療を独自の専門領域として認識し、他の医療分野との連携を特に考えていませんでした。そのため、歯科の分野は他の医療分野から比較的孤立しており、コミュニケーションのスタイルは歯科関係者間の専門的な内容を議論する内弁慶的なものが主でした。歯科以外の医療分野からは、歯科の話はよく分からない、患者からは専門的な内容はようわからんから治療はおまかせしますと言われ、歯科医療者側にとって都合の良い治療を選択してきました。時とともに、患者の医療に対する意識も変化しています。治療内容の開示、インフォームドコンセントに関する高い意識を持つ患者が増えています。さらに、歯科医療が全身の健康に対する影響を認識するようになり、口腔の健康と全身の健康の相互関係が理解されるようになりました。これにより、歯科関係者には、メディカルスタッフと協力して患者の健康を総合的にケアすることが求められています。患者の状態を包括的に理解し、多職種で連携して治療計画を策定することが一般的となりました。歯科関係者は、医師、看護師、栄養士など異なる専門家と協力し、患者のニーズに合った包括的なケアを提供するチーム医療の一員であるという意識を持つ必要が生じています。予防医療や保健指導においても同様に、他の健康専門家と協力し、国民に対して総合的な健康づくりのアドバイスを提供しなければなりません。これからは他職種にも国民にも歯科領域の専門的な内容を分かりやすく上手に発信し、理解、認識してもらおう外向きなコミュニケーションスタイルが歯科関係者に求められています。ヘルスリテラシーやヘルスマーケティングといったヘルスコミュニケーション学関連学会機構の他の分科会の情報を取り入れ、活用することが大切になります。

日本歯科コミュニケーション学会は、歯科医療の現場だけではなく、口腔疾患予防、口腔保健指導や福祉・介護現場における歯科のコミュニケーションに焦点を当て、その分析、研究、教育を行うための学際的情報交流をはかることを目的としています。ヘルスコミュニケーション学関連学会機構の他の分科会と連携し、ヘルスコミュニケーションのさらなる進展に寄与したいと思います。

現在、歯科関係の会員はわずかですが、魅力ある活動で会員数を増やし、本学会を盛り上げていく所存です。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。